

目的 高等学校・大学の被服教育は、原型を基に製作を行っているが、体型や体格に合った製図方法に基づかないため、仮縫い・補正が必要となっている。また、補正方法も熟知した者でないと難しいなどの問題点がある。そこで、体型を基に原型を修正することにより、仮縫い・補正が不要となるような方法を検討した。

方法 体型は側面から観察したシルエットにより6種類(正体、反身体、後傾体、屈身・扁平体、肥満体、厚身体)に分類する¹⁾。文化式・ドレメ式等における採寸方法と原型の比較を行う。被験者を選定し、スカートを製作する。体型と製図との関係を比較するために、布の伸びの影響が入りにくいサテンを用いた。まず、ダーツにポイントを絞り、①長さ、②位置を規定のものから種々に変えて、その影響を観察した。これらの結果から、体型や体格に適した修正原型の製図法を考察し、データベース化して活用できるようにする。適合性判定は、肉眼による観察のほかにコンピュータ画像処理による定量化も試みた。

結果 採寸値が同じでも、扁平の場合にはドレメ式でダーツ位置を約3cm内側に移動したものが適合する。逆に、厚みのある場合は、ドレメ式よりも文化式原型を用いダーツの長さを短くした方が適合する。他の体型に対してもこのような検討を行い、補正方法のデータベース化を試みた。(本報の一部は1989年度卒論生片山佳子と共同で行ったものである)

文献 1) 細野 久:体型・補正・裁断,文化出版局。